

開講学科	建築学科	実務家科目				前橋工科大学 シラバス
		—				
科目名	建築史Ⅳ（建築保存・活用論）	標準対象年次	選択／必修	科目コード		
		3年次	選択	14101301		
担当教員	臼井敬太郎	単位数	学期	曜日	時限	
		2単位	後期	金曜日	4時限	
授業の教育目的・目標	<p>目的：建築と近代化遺産について歴史的資産として保存・活用する視点から捉え直し、循環型社会を構築する要素として再考する。</p> <p>目標：①スクラップ・アンド・ビルドだけが建築のあり方ではない。ストックとして存在する建物やまちの保存・活用が今後の社会にどのように有効なのかを検討する。</p> <p>②保存・活用の理念について、歴史をさかのぼり、その形成と変遷について注目する。</p>					
学科の学修・教育目標との関係	建築設計者・技術者として必要な基礎知識を持っている。					
キーワード	建築史、近代建築史、保存・活用					
授業の概要	建築史Ⅳでは、縮退局面を迎えた現代日本において、歴史的建築やまちなみの生かし方を考える。スクラップ・アンド・ビルドに頼らない、建築をストックとして生かす時代を迎え、一層注目される建築の保存と活用、そしてまちづくりへの生かし方について、ヨーロッパにおける事例や国内の先進的試みに学ぶ。					
授業の計画	<p>第1回： 建築の保存・活用について</p> <p>第2回： 保存・活用の意味と意義</p> <p>第3回： 保存・活用のためのアプローチ</p> <p>第4回： 保存の理念の変遷</p> <p>第5回： 活用の意識の変遷</p> <p>第6回： ヨーロッパ南部における保存・活用の事例</p> <p>第7回： ヨーロッパ北部における保存・活用の事例</p> <p>第8回： 国内における保存・活用の事例</p> <p>第9回： 中間試験</p> <p>第10回： ヨーロッパにおける近代化遺産の保存と活用</p> <p>第11回： 国内における近代化遺産の保存と活用</p> <p>第12回： 歴史的建築を生かした街づくり</p> <p>第13回： 近代化遺産を生かした街づくり</p> <p>第14回： リノベーションの意味と意義</p> <p>第15回： 全体のまとめ</p>					
受講条件・関連科目	<p>受講条件：建築史Ⅰ、建築史Ⅱ、建築史Ⅲの履修。</p> <p>関連科目：建築史Ⅰ、建築史Ⅱ、建築史Ⅲ</p>					
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義ではスライドを使用し、視覚的に理解できるように配慮する。 ・毎回小課題を課し、講義内容の理解度を深める。 					
テキスト・参考書	参考書：「歴史的遺産の保存・活用とまちづくり」（大河直躬編、学芸出版社）					
成績評価	・中間試験（40%）、中間レポート（20%）、期末レポート（40%）。					
履修上の注意						